

平塚ロータリークラブ
会長 清水 裕

皆さま、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。

5月25日に緊急事態宣言が解除され、6月よりいよいよ経済活動社会活動が始まると思いきや、いきなり東京アラートが発出されました。まだまだ、コロナ禍の中にいることを忘れてはいけないのだな、とつくづく思い知らされた発出でありました。とは言え平塚をはじめ横浜、東京でも人の動きが始まり、それなりの賑わいが戻ってきつつあります。

しかし、コロナ前とは街や店の様子が様変わりしているの是一目瞭然です。ビニールカーテンやアクリル板、フェイスシールドにマスク、入り口には必ず除菌剤が用意されています。おっかなびっくりの活動開始となりましたが、来年以降の特効薬やワクチンの完成まで、致し方のない対応であろうと思います。会員の皆様も、くれぐれもお気をつけ願います。

さて、幹事報告にもあるかと思いますが6月1日に臨時理事役員会を開催いたしました。今年度も余すところ一カ月となり、締めくくりの例会開催等のご議論を頂きました。様々な議案をご審議頂きましたが、ここでは三点だけ皆さんにお知らせいたします。

- ① 6月4日11日例会休会 6月18日会長卓話 6月25日新入会員歓迎
- ② 平塚RC基金より100万円をコロナ指定病院・平塚市民病院に寄付
- ③ メイクアップに関連し、細則の変更

詳細は改めてご説明いたしますが、まずはお知らせまで。

いよいよ、皆様とお会いできるようです。楽しみにしております。

（忙中閑あり）

さて、本日もコロナがらみの話題となります。

6月1日夜8時、日本全国の花火師162業者が一斉に花火の打ち上げをしました。「Cheer Up! 花火プロジェクト」と銘打って、「悪疫退散を祈願し、花火を見上げて全国の人に笑顔になってもらう」という趣旨だったようです。私は、見損なってしまいましたが、県内の業者も参加したようですね。ご覧になった方いらっしゃいますか。

今回のプロジェクトの目的は、コロナの悪疫退散ということですが、そもそも花火の打ち上げ自体が、そのような意味をもって誕生したようです。今では全国で行われている花火大会ですが、始まりは「両国の川開き」と言われています。そのきっかけは、8代将軍・徳川吉宗の時代、「享保の大飢饉」で物価が跳ね上がり、コレラが流行した江戸の人々に慰霊と疫病退散を祈念する目的で水神祭を行い、花火を打ち上げました。当初は、20発程度の小規模なものだったようですが、これが花火大会の起源と言われています。

疫病をきっかけに行われた事業は日本全国にあり、奈良の大仏もそのひとつ。743年平城京に天然痘が大流行し、聖武天皇が国家の安寧と疫病退散を祈念して大仏の造立を命じたことによるものと記されています。「豆まき」も、疫病退散が目的だったと言われています。今流行りの「アマビエ」も、疫病から逃れるために生まれたものですし、21世紀を生きる我々の身近に、昔の人々が残した感染症対策の名残りがそこに残されています。今も昔も、感染症は人類にとっての恐怖の対象だったのですね。

6月18日に皆さん逢えることは楽しみではある反面、今年度の振り返りの卓話をしなければならぬ、というプレッシャーも感じているところです。今原稿を書き始めたのですが、後半コロナ禍で3か月半活動が中止した割には、結構いろいろなことがあったなあと感じています。そして一年を振り返ってつくづく思うことは、本当に会員の方々に支えられたということでありました。やっぱり、平塚クラブのメンバーは凄い。改めて、そのような人たちと「つながり」ができたこと幸せに感じながら一年を振り返っています。

皆さんに会える日楽しみに、くれぐれも健康にはご留意ねがいます。